

株式会社武蔵野ユニフォーム

刺繍機導入によるポップデザイン足袋の開発と 国内及び海外販売展開

サムライ印で逆輸入狙う

作業服や白衣、事務服の卸販売、小売をメインとする武蔵野ユニフォームが足袋を手がけるようになったのは2012年1月のことだ。

会社がある行田市は「足袋のまち」として有名。足袋の老舗業者がランニングシューズ開

発に挑むとい

う池井戸潤さ

んの小説「陸

王」の舞台と

なり、201

7年秋にはド

ラマ化されて

話題を呼んだ。

足袋業者で

ない同社の足

袋はかなり異

色と言ってい

い。「ポップ足

袋」と銘打っ

た第1弾商品



和柄を強調する独特のデザイン刺繍を施したサムライ足袋

は黄色の地に黒色の水玉模様。製造を依頼した足袋業者の職人さんからは「こんなの誰が買うんだい」「目がチカチカするんだよね」などと言われた、と小松和弘代表取締役は笑う。「この足袋なら洋装にも合うのでは」と考えた小松氏は海

外進出をもくろむ。2014年6月、サンマリノ共和国に日本の神社ができた記念のイベント、翌年7月にはパリのジャパンエキスポに出品。これを機にネーミングを「サムライ足袋」に変えた。

「他にない柄で洋服にも合う、ファッションアイテムの一つになるような足袋」がサムライ足袋のコンセプト。この路線をさらに推し進めようと、ものづくり補助金を活用し2017年に刺繍機を導入した。一度に六つの刺繍ができる6頭立て、精巧な刺繍が施せる1頭立ての2台だ。

同年から、パリ市内の店舗にサムライ足袋を置いてもらおうと営業活動を強化。竜や家紋といった和柄のデザイン刺繍で個性を際立たせたサムライ足袋を売り込んだ。

2018年7月のパリ・ジャンエキスポではファッションコンテストも行った。小松氏は「サムライ足袋は海外人気を先行させ、逆輸入を狙いたい」と意気込む。同年からは多彩なパフォーマンス集団とのコラボレーション企画にも力を入れている。

■ 株式会社武蔵野ユニフォーム

本社：行田市藤原町2-7-7

代表者：代表取締役 小松和弘

設立：1974年7月

資本金：1000万円

従業員数：25人

電話：048 (554) 7325

メモ▶サムライ足袋は2017年11月、彩の国優良ブランド品に認定。その海外店舗での販売計画は2019年1月、埼玉県経営革新計画の承認を受けている。